

TECHNICAL DATA

製品仕様	ジオポリマー内装仕上塗材
製品名	ジオアース300Fクリーン

第2版 作成日：2026年 7月 27日



菊水化学工業株式会社

施 工 仕 様 書

製品仕様： ジオポリマー内装仕上塗材

製 品 名： ジオアース 300F クリーン

仕上形状： 平塗仕上げ、凹凸仕上げ

素 地： コンクリート、石膏ボード、壁紙 等

部 位： 内装

1. 工程表

(23℃)

《平塗仕上げ》

工 程	材料・調合	施工用具・条件	塗 回 数	間隔 時間 (hr)	所要量
素地調整	ゴミ、未硬化セメント粉末、砂塵、油脂分などの付着物をワイヤーブラシ、かわすき、サンドペーパー、ウエスなどで除去し、乾燥した清浄な面とする。				
主材 2	ジオアース 300F クリーン 主 材：2kg 混和液：6kg 清 水：1.6-2.4L	無泡ローラー(壁面) ウールローラー(天井面) はけ 等	2	24以上 工程内 1以上	22~32㎡/セット 0.25~0.36kg/㎡

《凹凸仕上げ》

素地調整	ゴミ、未硬化セメント粉末、砂塵、油脂分などの付着物をワイヤーブラシ、かわすき、サンドペーパー、ウエスなどで除去し、乾燥した清浄な面とする。				
主材 1	ジオアース 300F クリーン 専用下塗材 主 材：20kg 清 水：0.4-1.2L	多孔質ローラー極細目	1	16以上	20~28㎡/20kg 0.7~1.0kg/㎡
主材 2	ジオアース 300F クリーン 主 材：2kg 混和液：6kg 清 水：1.6-2.4L	無泡ローラー(壁面) ウールローラー(天井面) はけ 等	2	24以上 工程内 1以上	22~32㎡/セット 0.25~0.36kg/㎡

ジオアース 300F クリーン練り混ぜ後の可使用時間：8時間以内(20℃)

注1 施工用具・条件は代表的なものです。

注2 間隔時間・所要量の値は標準的なものです。施工方法・器具、被塗物の形状、素地の状態、施工条件により各々多少の幅を生じることがあります。

注3 所要量の確認は、塗見本との比較または単位面積当たりの使用量で確認してください。

注4 下地が珪藻土、壁紙の場合は専用下塗材を必須とします。

注5 平塗仕上げの場合は、混和液、主材、希釈水混合後に
350μm以下のメッシュを通してから使用してください。

注6 防火認定が必要な場合は、主材 1、主材 2 の所要量を厳守してください。

注7 塗料を小分けする際、必ず缶を切って攪拌をしてください。

2. 材料荷姿

ジオアース３００Ｆクリーン専用下塗材		NET：20kg/缶
ジオアース３００Ｆクリーン		主材 NET：2kg/袋
		混和液 NET：6kg/缶

3. 施工要領

3-1. 素地調整

- 素地の乾燥は、十分に行ってください。(含水率10%以下)
- 巣穴、段差などがある場合は、「ジオアース100」やセメント系下地調整材「キクスイフィラー」「BR#15」等で処理を行ってください。
- 汚れおよび付着物は、ワイヤーブラシ・研磨紙・布等で除去し、必要に応じて水洗いを行ってください。
- 旧塗膜の浮き・剥がれ・チョーキングは除去してから施工してください。

3-2. 材料の混ぜ合わせ

主材1：ジオアース300Fクリーン専用下塗材

- 小分けで使用する場合は、主材を十分に練り混ぜた後、必要量を計量してください。
- 希釈水は必ず清水を使用してください。
- 施工箇所が高温である場合は、製品をできるだけ気温の低い所に保管し、あらかじめ冷却した水で練り混ぜてください。

主材2：ジオアース300Fクリーン

- 主材を混和液へ投入し、さらにダマが残らないように十分に練り混ぜ、その後必要に応じて希釈をしてください。
- 小分けで使用する場合は、混和液を単体で十分に練り混ぜた後、必要量を計量してください。
- 希釈水は必ず清水を使用してください。
- 練り混ぜ後、可使時間以内に使い切ってください。また、可使時間は温度、希釈によって変わりますので、練り混ぜ後はなるべく早く使い切ってください。
- 可使時間の過ぎた材料を、再攪拌して使用しないでください。
- 練り足し、水を加えての練り戻しはしないでください。
- 施工箇所が高温である場合は、製品をできるだけ気温の低い所に保管し、あらかじめ冷却した水で練り混ぜてください。
- 平滑面に対し平塗仕上げをする場合は、混和液、主材、希釈水混合後に350μm以下のメッシュを通してから使用してください。

3-3. 施工

主材 1 : ジオアース 300F クリーン専用下塗材

○所定の塗付量に達しない場合や超えてしまう場合には、種々の欠陥を生じる場合があります。

所定の塗付量を守って施工して下さい。

○希釈率は試験塗りなどにより決定し、それ以降は同一の希釈率で使用して下さい。

主材 2 : ジオアース 300F クリーン

○所定の塗付量に達しない場合や超えてしまう場合には、種々の欠陥を生じる場合があります。

所定の塗付量を守って施工して下さい。

○2回塗りを標準とし、色むら、だれ、光沢むらのないよう均一に塗り付けて下さい。

○希釈率は試験塗りなどにより決定し、それ以降は同一の希釈率で使用して下さい。

○塗材が直接皮膚に触れないように注意して使用してください。

○直接皮膚に触れたり目に入った場合は直ちに流水で流してください。

3-4. その他

○汚れがつくとふき取り除去が困難となります。補修する場合は部分タッチアップしてください。

タッチアップすると色調に差異が出る場合があります。

成 分 表

主材１：ジオアース３００Ｆクリーン専用下塗材

内 容	重 量 (%)
アクリル樹脂エマルジョン	19.6
白色及び体質顔料	71.1
水	4.2
添加剤	5.1
計	100.0

主材２：ジオアース３００Ｆクリーン

ジオアース３００Ｆクリーン 主材

内 容	重 量 (%)
結合材（高炉スラグ等）	65 - 75
体質顔料	20 - 25
添加剤（消泡剤等）	5 - 15
計	100.0

ジオアース３００Ｆクリーン 混和液

内 容	重 量 (%)
コロイダルシリカ	40 - 50
白色及び体質顔料	25 - 35
水	5 - 20
アクリル樹脂エマルジョン	5 - 10
添加剤（粘性調整剤、消泡剤等）	1 - 3
計	100.0

性能試験成績書

製品仕様		ジオポリマー内装仕上塗材	
製品名		ジオアース３００Ｆクリーン	
供試材料		ジオアース３００Ｆクリーン	
試 験 項 目 （JIS A 6909－2021 内装薄塗材E準拠）			結 果
低温安定性		塊がなく、組成物の分離及び凝集がない。	合 格
初期乾燥による ひび割れ抵抗性		ひび割れがない。	合 格
付着強さ N/mm ²	標準状態	0.3以上	1.1
耐洗浄性		剥がれ及び摩耗による基板の露出がない。 ※スレート板に標準所要量で塗り付け、試験を行った。	合 格
耐衝撃性		ひび割れ、著しい変形及び剥がれがない。	合 格
耐アルカリ性 A法		ひび割れ、剥がれ、膨れ及び軟化溶出がなく、 浸さない部分に比べて、くもり及び変色が著しくない。	合 格
耐変退色性		ひび割れ及び剥がれがなく、 変色の程度は、グレースケール3号以上とする。	合 格
—以下余白—			

* 上記数値は代表値であり、製品の数値等を保証するものではありません。あらかじめご了承下さい。

性能試験成績書

製品仕様		ジオポリマー内装仕上塗材	
製品名		ジオアース300Fクリーン	
供試材料		主材1：ジオアース300Fクリーン専用下塗材 主材2：ジオアース300Fクリーン	
試験項目（JIS A 6909－2021 内装薄塗材E準拠）			結果
低温安定性		塊がなく、組成物の分離及び凝集がない。	合格
初期乾燥による ひび割れ抵抗性		ひび割れがない。	合格
付着強さ N/mm ²	標準状態	0.3以上	1.2
耐洗浄性		剥がれ及び摩耗による基板の露出がない。 ※スレート板に標準所要量で塗り付け、試験を行った。	合格
耐衝撃性		ひび割れ、著しい変形及び剥がれがない。	合格
耐アルカリ性 A法		ひび割れ、剥がれ、膨れ及び軟化溶出がなく、 浸さない部分に比べて、くもり及び変色が著しくない。	合格
耐変退色性		ひび割れ及び剥がれがなく、 変色の程度は、グレースケール3号以上とする。	合格
—以下余白—			

* 上記数値は代表値であり、製品の数値等を保証するものではありません。あらかじめご了承下さい。

一 般 的 な 注 意 事 項

《下 地》

- 下地がコンクリート、モルタルの場合は、下地の乾燥を十分行ない、含水率 10%以下で施工してください。
- かびや藻が発生している場合は、塩素系漂白殺菌剤「K S クリーナー」などで殺菌洗浄を行ってください。
- ALCやコンクリートなどで巣穴、段差がある場合は、ジオアース 100（固練り）や下地調整塗材（JIS A 6916相当品）等で処理してください。
固練りはジオアース 100 の混和液の量を減らして調整してください。
- 無機塗料、特殊下地への塗装及び特殊塗装の場合は、最寄りの弊社営業所にご相談ください。
- プラスターボードへの塗装はパテかい部とそれ以外の面で吸込みの違いが生じ、色むらなど仕上がりに影響が出る恐れがあります。下塗りを塗装して均一な状態にしてください。
- ドアのゴムパッキンなど可塑剤を含むものやシーリング材への塗装は塗膜の剥離、ひび割れなどが起こる場合があるため、施工を避けてください。
- 合成皮革、ゴムパッキン、軟質塩化ビニル製品などは、塗膜との接触を避けてください。
可塑剤のブリードによる粘着が起きる場合があります。
- 蓄熱しやすい建材（軽量モルタル、ALC、窯業系サイディング、発泡ウレタン使用建材など）に塗装する場合は、蓄熱や水の影響、下地の状態、塗装時の環境など、いくつかの条件が重なることで建材の変形、塗膜の膨れ、剥離が生じることがあります。
- 動きが予想される部位への塗装は、塗膜がひび割れまたは剥離する可能性があります。
- アルミサッシなどに付着するとアルミを腐食させる可能性があります。
付着しないように養生してください

《環 境》

- 塗膜の乾燥過程で水分の影響（高湿度、結露、降雨等）を受けた場合、塗膜表面が白化することがあります。施工場所の気温が5℃以下、湿度85%以上又は結露の発生が考えられるなど水分の影響を受ける可能性がある場合は、施工を行わないでください。
- 直射日光下で施工する場合は、適切な養生をし、下地表面の急激な温度上昇を防止してください。
- 施工時は換気を十分に行ってください。

《施 工》

- 施工時は飛散防止として養生は十分に行ってください。
- 施工面とその周辺（車や付帯設備を含む）や床などに汚染や損傷を与えないように注意し、必要に応じて、あらかじめ施工箇所周辺に適切な養生を行ってください。
- 養生テープ等の上についた塗膜が乾燥すると、粉状になって飛散する恐れがあります。捨てテープ等を活用し、乾燥前に除去するもしくは飛散に注意しながら乾燥後に除去してください。
- 乾燥途中で降雨等が予想される場合は、シート養生を行うなどして、塗膜表面に水分が当たらないようにしてください。
- 塗料は、均一にミキサーで攪拌してから使用してください。
- 材料の希釈量は、所定の希釈量範囲内、所定の所要量で事前に試験塗りなどを行ない、決定してください。希釈の過多、不足はダレや隠ぺい不足、仕上がりムラの原因になります。
- 各種施工仕様に記載の所要量及び間隔時間を守って施工し、適正な塗付量を確保してください。
- 表面に白華が発生した場合はブラシ等により除去してから次工程の作業を行ってください。
- 施工箇所が高温である場合は、製品をできるだけ気温の低い所に保管し、あらかじめ冷却した水で練り混ぜてください。
- 使用後は塗装器具を十分に洗浄してください。
- 磁器タイル洗浄用の酸が表面に付着すると変色したり、溶解することがあります。磁器タイルの洗浄用の酸が塗装面に付着する可能性がある場合は、必ず施工面のマスキングを行ってください。
- 色、模様の決定に当たっては事前に見本板で確認してください。
- 被塗物の形状、膜厚、塗回数、希釈量などの違いにより実際のつやと異なって見える場合があります。また、はけ・ローラー塗装時の塗継ぎ箇所でも起こる場合があります。特に艶調整品は、被塗物の形状、素地の状態、膜厚、色相、塗り重ね乾燥時間等により実際の艶と若干違って見える場合がありますので、試し塗りの上、本施工してください。
- 既存塗膜の剥離箇所は、既存塗膜の塗装仕様でパターン合わせを行ってください。
- 傷などで補修塗りが必要な場合がありますので、補修用に使用塗料の控えを取っておき、同一塗料、同ロット、同一方法で補修してください。
- 他の材料と混合して使用しないでください。
- 水性塗料には動物毛のはけは固まり塗装に支障が出ますので化繊のはけを使用してください。
- 使用後は塗装器具を十分に洗浄してください。

《材 料》

- はけ塗りとローラー塗り、スプレー塗りが混在する場合、施工方法の違いで若干の色相差が生じます。希釈量を調整するなどして塗装してください。
- 希釈した材料を後日使用すると、色相が変わる場合があります。
希釈した材料は、その日のうちに使い切るようにしてください。
- 防藻、防カビ効果は、繁殖を抑制するものです。施工部位の形状、構造、環境条件によっては防藻、防カビ効果が十分に発揮されない場合があります。また、すでにカビ、藻が繁殖している場合は、下地処理として除去及び殺菌処理を行ってください。
- 施工部位により、傾斜壁の下端部、水切りの無い部位、窓周りで水切りが不十分な場合、雨掛りの少ない部位などは低汚染性が十分に発揮されない場合があります。
- 施工後、塗膜が乾燥するまでの間に、塗膜表面に長時間水がかかった状態になると、艶引け、ひび割れ、変色等が発生する場合があります。
また、艶消し品や濃色品では低温時、湿度が高い状況下などで塗膜に艶が出たり、白濁、塗膜中の成分の流出が起こる場合があります。

《保 管》

- 直射日光下や屋外、0℃以下での保管はしないでください。
- 製品は、湿気に注意し、水がかりを避け、パレットの上に置き、なるべく乾燥した屋内に保管してください。

安全衛生上の注意事項

- 製品の取扱いについての一般的な注意事項の詳細はSDS(安全データシート：JEMSDS)を参照してください。
- 取扱い後は手洗い、うがいを十分に行なってください。
- アルカリ性が強いいため、適切な保護手袋、保護眼鏡、防毒・防塵マスクなどを着用してください。
- 皮膚についた時は直ぐに水で洗い流してください。
- 目に入った時は直ぐに水で洗い、速やかに医師の診断を受けてください。
- 誤って飲み込んだ場合は速やかに医師の診断を受けてください。
- 皮膚についた場合は、多量の水と石鹸で洗ってください。また、皮膚刺激または発疹が生じた場合は、診断を受けてください。
- 粉じん、蒸気、ガス等を吸い込んで気分が悪くなった場合は、安静にし、必要に応じて医師の診断を受けて医師のください。
- 日光から遮断し、換気の良い場所で保管してください。
- 開封後、やむを得ず保管する場合は無希釈の状態で密栓して冷暗所で保存し、速やかに使い切ってください。
- 取扱い中は、粉じんがたたないように注意し、また、取扱い後は密閉した容器に保管してください。
- 火気、スパーク等の発火源があると、粉じん爆発の恐れがありますので、取り扱いには十分注意してください。
- 缶の取手は手さげ専用です。ロープやフックで吊り下げると外れることがあります危険です。絶対に行わないでください。
- 子供の手の届かない所に保管してください。
- 塗料、塗装器具を洗浄した汚水はそのまま地面や排水溝に流すと環境に悪影響を及ぼすおそれがありますので、関連法規を厳守の上、産業廃棄物として処理してください。

* 本仕様書の内容は予告なしに変更することがあります。

施工に当たっては常に最新版の仕様書を参照し、適切な対策を取るようにしてください。